

自己評価報告書(最終報告)

報告者

国際教育コース／小澤 大成

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

学部において主として担当している教科専門科目について以下の取り組みを行う。
地学実験Ⅰ①授業の序論において小中学校の理数科カリキュラムのレビューを実施させ、実験内容と学校現場での実践を関連させる。②フレンドシップ事業により子どもとの触れ合いの機会を1年生に与え、以後の実習への意識向上を図る。③レポート、出席から総合的に評価する。
地学実験Ⅱ①専門的な実験と中学校教科書にのっている実験を交えて授業を実施する。②偏光顕微鏡による観察を通じ、岩石鉱物標本を用いた実験を自信を持って実施できる基礎力をつけさせる。③レポート、出席から総合的に評価する。

2. 点検・評価

地学実験Ⅰ①冒頭において小中学校の理数科カリキュラムのレビューを実施させ、実験内容と学校現場での実践を関連させた。②徳島県立あすたむらんどにおいてフレンドシップ事業を平成25年10月26・27日に実施し、子供との触れ合いの機会を与えた。③評価についてはレポート、出席から総合的に評価した。
地学実験Ⅱ①専門的な実験と中学校の教科書に載っている火山灰の鉱物観察に関する実験を交えて実施した。②偏光顕微鏡による観察を通じ、主要な岩石・造岩鉱物指導に関する基礎力をつけさせた。③評価に関してはレポート・出席から総合的に評価した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

国際教育コースの教育に関して以下の取り組みを行う。

1. 途上国の授業改善に資する教員指導者としての能力向上を図るため、KJ法を用いた課題分析や詳細な授業分析手法の導入・定着を実施する。また模擬授業の計画・実施・省察を通じて、授業研究手法を体得させる。
2. 全構成員が参加するセミナーにおいて多様な観点からの議論が行われるよう環境を整備する。
3. 国際理解教育に関して持続発展の観点から様々な活動を通じて理解させる。

2. 点検・評価

1. 後期開講の「国際教育協力特論Ⅱ」において途上国の授業改善に資する教員指導者としての能力向上を図るため、KJ法を用いた課題分析、ケニアで収録した授業ビデオを用いて詳細な授業分析手法の導入・定着を実施した。また模擬授業の計画・実施・省察を通じて、授業研究手法を体得させることができた。
2. 全構成員が参加するセミナーにおいて多様な観点からの議論が行われるよう、司会進行を大学院生のローテーションにするとともに、使用言語を英語とし、日本人学生と外国人留学生在が円滑にコミュニケーションを図れるようにした。
3. 国際理解教育に関して、後期開講の「国際理解教育演習」において、持続発展の観点から様々な活動を体験させ、実感を伴った理解を可能とした。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- (1) JICA研修の評価に関して質問票の開発・分析や、帰国研修員のフォローアップ調査、専門家への聴取調査を進め、よりよい研修の在り方を探る。
- (2) 途上国の教員研修における授業研究の受容とその効果について調査を行う。
- (3) 学内外の研究資金公募に積極的に応募する。

2. 点検・評価

- (1) カメルーン(H26/2-3:仏語圏アフリカ研修フォローアップ調査)、ケニア(H26/3:ケニア研修フォローアップ調査)において今回開発した授業研究実施に関する質問票を使用し、実態調査を実施した。また帰国研修員が授業研究を実践している状況を確認することができた。ザンビアにおいて専門家に聴取調査を実施し、より良い研修の在り方に関する示唆を得た。
- (2) (1)に記したカメルーンおよびケニアでのフォローアップ調査では、初等学校及び中等学校に設定されたパイロット校における授業研究の状況を視察し、教員および教員指導者との協議を通じて現状と課題を把握することができた。また南アフリカ共和国の初中等学校においても調査を実施し(H25/9)、授業研究の実態を把握した。
- (3) H26年度科学研究費基盤Cに応募したが、未採択であった。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

(1)国際教育コースおよび教員教育国際協力センターの教員として本学の運営に協力する。

2. 点検・評価

大学院教務委員会および教員教育国際協力センターの会議に出席し、また教員教育国際協力センターのフォーラム開催に協力した。大学院院生による授業評価専門部会の主査を務め、アンケートの改訂を実施した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- (1)JICA等の国際協力事業に貢献する。
- (2)公開講座や10年次研修で、地域社会との連携・交流を積極的に行い、社会に貢献する。

2. 点検・評価

(1)5月に実施されたモザンビーク研修, 11～12月に実施されたケニア研修に協力した。1～2月に実施された仏語圏アフリカ研修ではコースリーダーとして研修を統括した。
(2)5月に実施された公開講座および8月に実施した10年次研修・教員免許状更新講習において国際理解教育に関する講義を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)